松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

－県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区
牧ノ段農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

牧ノ段遺跡

（まき）（だん）

１９９６年３月
鹿児島県曽於郡松山町教育委員会

序　　文

新橋河床地区を、県営中山間地域総合整備事業で農道舗装するにあたり、平成元年度に確認調査を行った結果、この地域は文化財の包蔵地にあたるので、牧ノ段遺跡を平成７年11月２日から平成７年11月24日までの間発掘調査をしました。調査面積は240㎡です。

実はこの遺跡は畑地のほ場整備のため、平成元年度に発掘確認調査が行われているのですが、その時には縄文時代前期の土器片が多数出土しています。住居跡などの遺構は見つかりませんでしたが、遺跡の包蔵地が広範囲にわたることがわかりました。そのため、事業の推進について大隅耕地事務所との協議を行い、遺跡の保護を図ることができました。今回は残念ながらどうしても記録保存を行わなければなりませんでした。これからも埋蔵文化財の保護を積極的に行い郷土の貴重な財産を後世に残さなければならないと思います。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成８年３月

松山町教育委員会

教育長　川　畑　禮　二

例　　言

1．本報告書は、平成７年度に実施した県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区牧ノ段農道整備に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2．発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3．発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4．発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5．本書に用いたレベル数値はすべて海抜絶対高である。
6．本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7．発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8．出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

報告書抄録

ふりがな	まき　の　だん　い　せき
書名	牧ノ段遺跡
副書名	県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区牧ノ段農道整備に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松山町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	上田義明
編集機関	松山町教育委員会
所在地	〒899－76　鹿児島県曽於郡松山町新橋268番地
発行年月日	１９９６年３月３１日
ふりがな	まき　の　だん　い　せき
所収遺跡名	牧ノ段遺跡
所在地	鹿児島県曽於郡松山町新橋牧ノ段
調査期間	１９９５．１１．２～１１．２４
調査面積	２４０m^2
調査原因	県営中山間地域総合整備事業　やっちく松山地区牧ノ段農道整備事業

	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記事項
出遺物・遺構等	縄文時代		縄文時代前期	パンケース　1箱	

本　文　目　次

序文

例言

報告書抄録

第１章　調査の経過 …… 1

第１節　調査に至るまでの経過 …… 1

第２節　調査の組織 …… 1

第３節　調査の経過 …… 2

第２章　調査の概要 …… 3

第１節　調査の概要 …… 3

第２節　標準土層 …… 3

第３節　調査の方法 …… 8

第４節　出土遺物 …… 8

第３章　まとめ …… 9

挿　図　目　次

第１図　土層模式柱状図 …… 3

第２図　牧ノ段遺跡の地形 …… 4

第３図　牧ノ段遺跡の調査範囲 …… 5

第４図　遺物出土状況 …… 6

第５図　出土遺物実測図 …… 7

表　目　次

第１表　出土土器観察表 …… 7

図　版　目　次

図版１　牧ノ段遺跡遺物出土状況 …… 9

図版２　牧ノ段遺跡発掘調査状況 …… 9

第１章　調査の経過

１）調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、曽於郡松山町新橋河床工区において県営県営特殊農地保全整備事業（豊留地区）を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これを受けて、昭和61年４月、文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に牧ノ段遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、松山町教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘確認調査を実施することとなった。

発掘調査は、鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化課の協力を得て、平成元年５月22日から平成元年６月８日まで実施した。調査面積は計112㎡である。その結果、遺跡が工事計画区内の南東側に分布することが確認された。その後鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、平成７年度において、同遺跡の範囲内に中山間事業による農道整備を計画し、実施計画区内の埋蔵文化財発掘調査を松山町教育委員会に依頼した。

これを受けて松山町教育委員会が調査主体となって県文化課の指導を受けながら、遺跡の記録保存を行うために、発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化課の協力を得て、平成７年11月２日から平成７年11月24日まで実施した。調査面積は計240㎡である。

２）調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会		
調査責任者	松山町教育委員会	教育長	川畑　禮二
調査事務担当者	〃	管理課長	白坂　泰雄
	〃	参事兼指導主事	新村　隆実
		主査	後藤由紀子
	〃	主事	加世田和彦
	〃	社会教育課長	吉井　宏徳
	〃	派遣社会教育主事	祖母仁田　政明
	〃	主事	上田　義明
	〃	主事	山下　博文
	〃	社会教育指導員	寺山　重隆
	〃	庶務係	早崎ゆう子
調査担当者	松山町教育委員会	主事	上田　義明

なお、調査の企画等において、県教育庁文化課長立園多賀生氏、同課長補佐今別府修一氏、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長戸崎勝洋氏、同企画文化係長平野誠一氏の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3）　調査の経過

11月２日（木）　調査開始。調査機材の搬入。発掘調査についての説明。重機により表土を掘りあげ、３層面まで検出。

11月６日（月）　排土置場が不足したため工事担当業者の協力を得て排土を搬出。

11月７日（火）　３層面調査継続。土器数点出土。

11月８日（水）　３層面調査継続。

11月９日（木）　３層面調査継続。４ａ層検出。

11月14日（火）　４ａ層面調査継続。

11月15日（水）　４ａ層面調査継続。遺物出土状況写真撮影及び実測、遺物取上げ。

11月16日（木）　４ａ層面調査継続。グリッド位置図実測

11月17日（金）　４ａ層面掘り上げ終了。５層検出。出土遺物なし。

11月20日（月）　５層調査継続。出土遺物なし。調査区左隅にサブトレンチ設定。

11月21日（火）　５層調査継続。出土遺物なし。サブトレンチ６層面まで検出。出土遺物なし。

11月22日（水）　５層調査継続。出土遺物なし。サブトレンチ８層面まで検出。出土遺物なし。

11月24日（金）　調査終了。調査機材の搬出。

2　調査の概要

1）調査の概要

調査区域は、菱田川および菱田川の支流山角川に囲まれた標高約180mの台地末端部にあり、南東方向に緩やかに傾斜している。東側の水田との標高差は約40mである。台地の中央部を南北方向に曽於広域農道が通っているが、今回の調査は広域農道から東側に伸びた幅約４mの農道である。調査範囲は平成元年の確認調査で確認された遺物分布範囲を中心にやや広めに行った。昭和58年、61年の分布調査では縄文時代の晩期の土器が採集されている。

その結果、縄文時代前期の土器が数点出土した。

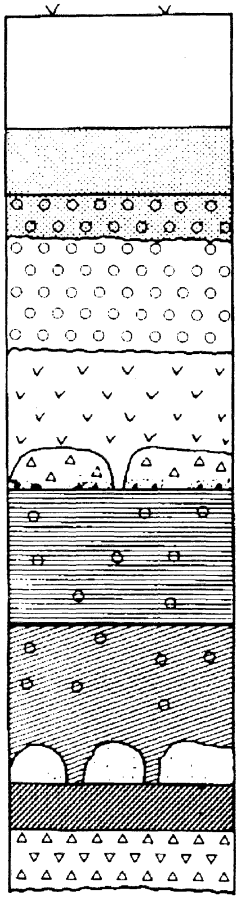
2）標準土層

1層　　暗褐色耕作土。色調により２～３層に区分できる。

2層　　黒色腐植火山灰土層。黒色微粒の植壌土で、やや粘質を帯びる。

3ａ層　　褐色腐植火山灰土層。３ｂ層の軽石質火山灰層に２層の有機質がしみ込んだもので、３ｂ層との境は不安定で漸移している。

3ｂ層　　明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径５㎜前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。



第１図
土層模式柱状図

4ａ層　　褐色腐食火山灰土層。直径１㎜前後の黄橙色軽石を多く含む。４ｂ（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。

4ｂ層　　明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず５層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

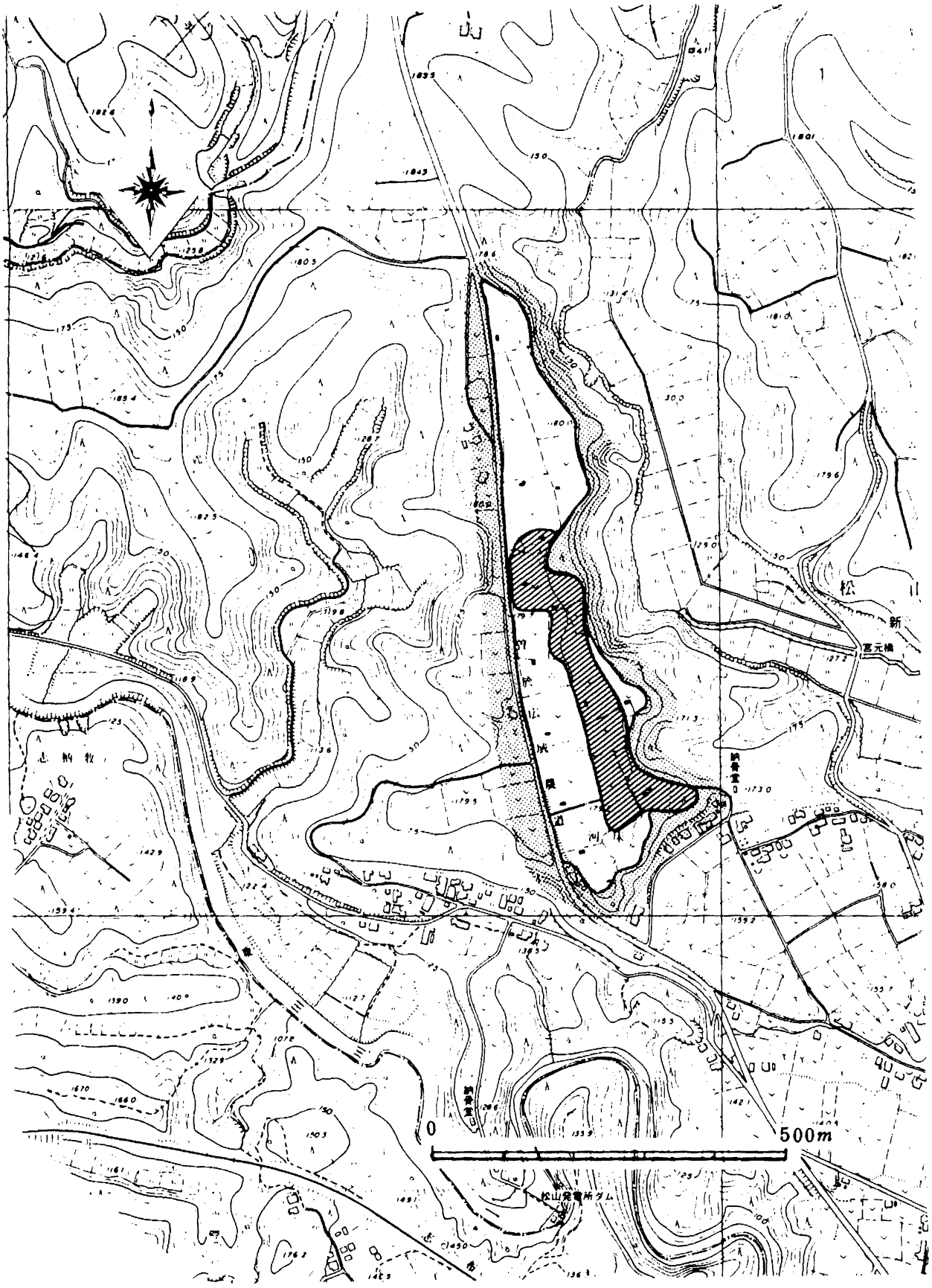
5層　　灰褐色火山灰土層。直径１㎝前後の黄橙色軽石および直径５㎜前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。

6層　　黒褐色腐食土層。直径５㎜前後の黄橙色軽石および直径５㎜前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。５層との境は不明瞭で漸移している。

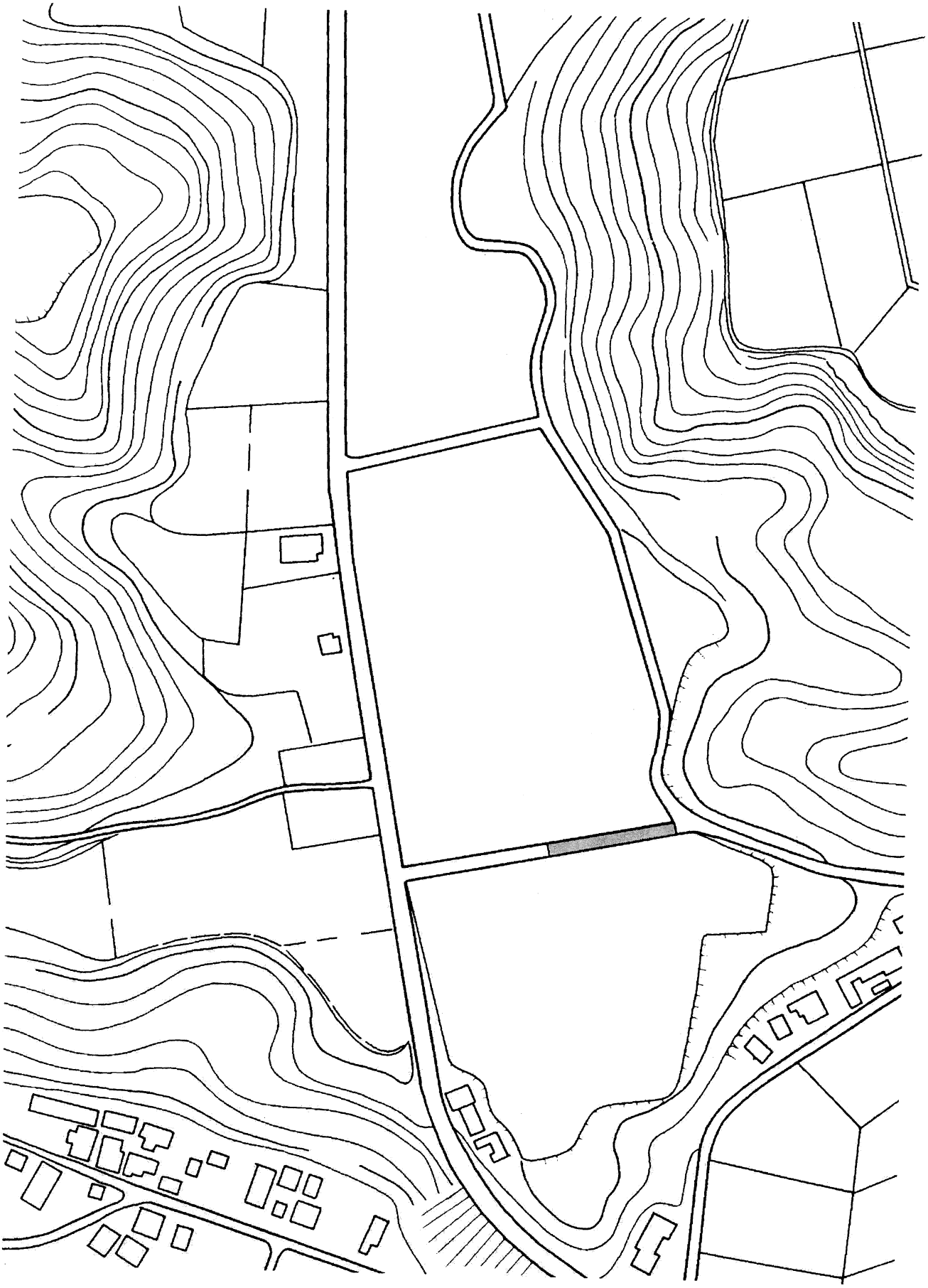
7層　　黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、６層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。

8層　　明褐色粘質土層。きわめて砂粒の粘質を帯びたソフトローム層である。

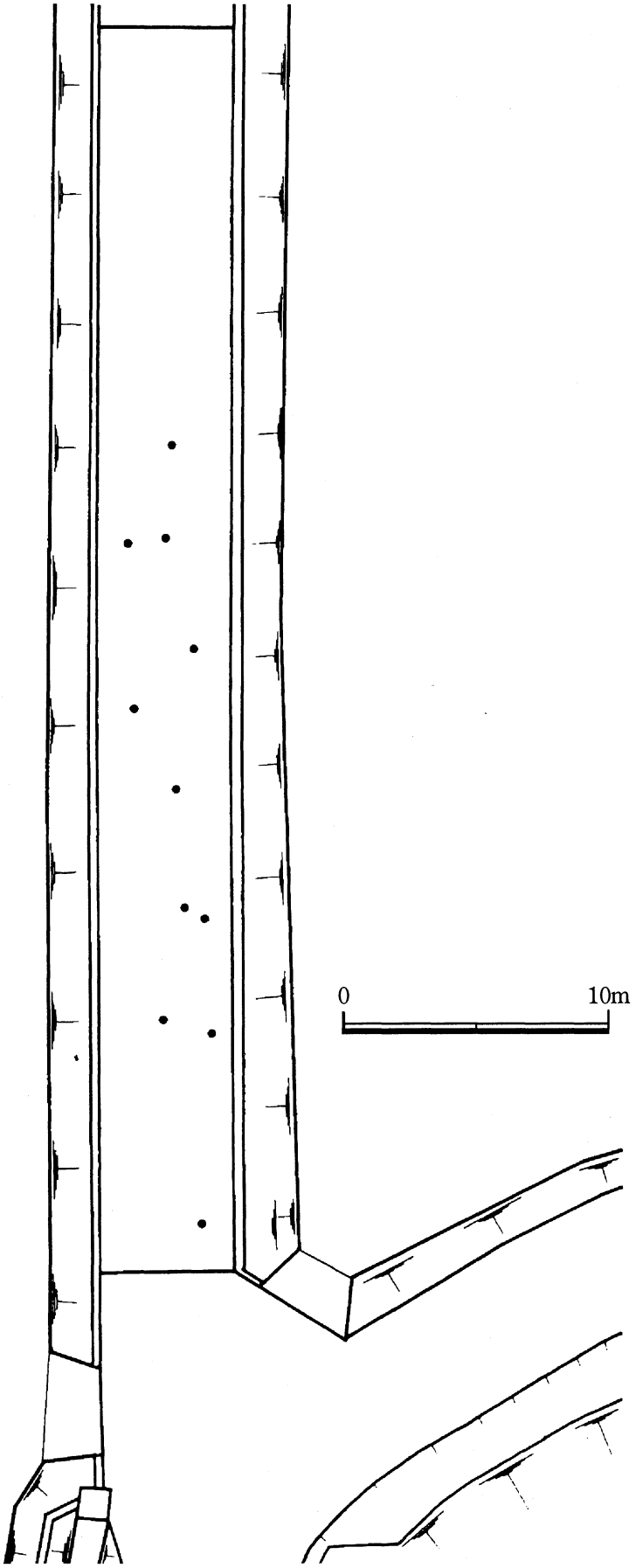
9層　　淡黄褐色火山灰土層。粘質化した二次シラス層である。



第２図　牧之段遺跡の地形



第３図　牧之段遺跡の調査範囲



第４図　遺物出土状況

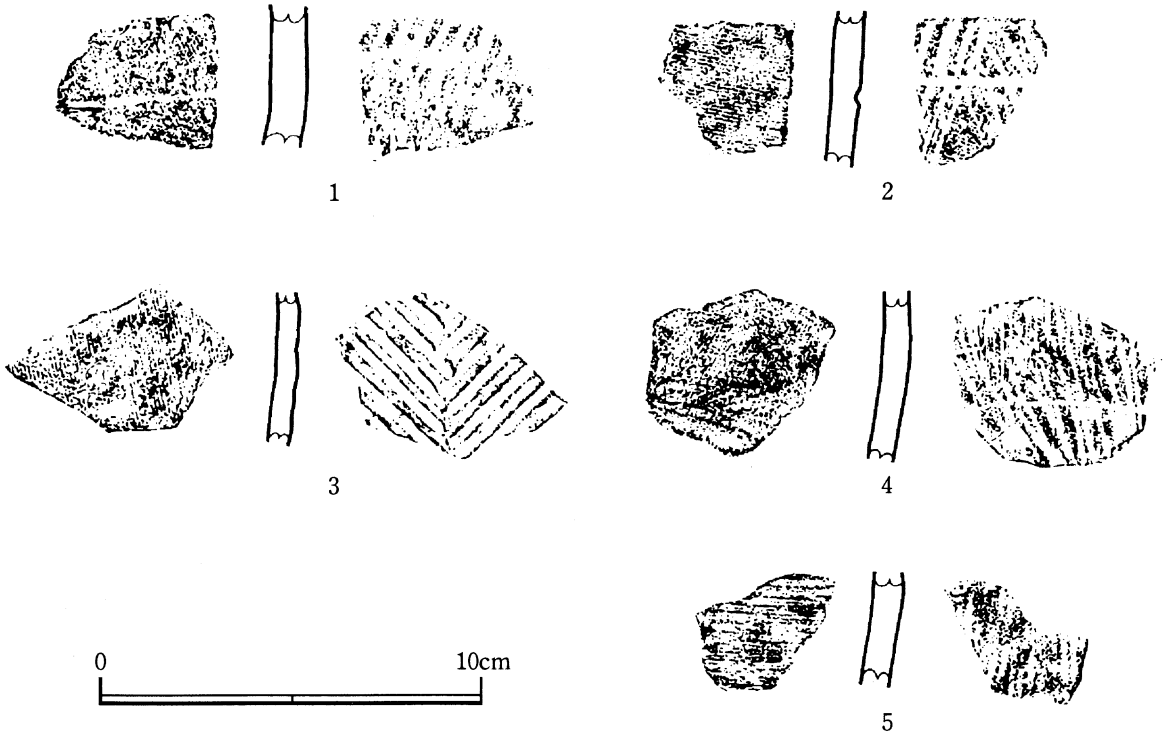
3）調査の方法

発掘調査は平成元年度の確認調査で確認された遺跡の分布範囲よりもやや広めに行った。重機を使用し、3層面まで掘り下げ、3層面から手掘りにより調査した。その結果縄文時代前期の土器が6点、石器が3点出土した。遺構等は確認されなかった。

4）出土遺物

1は調査区域の東側から出土した土器で、貝殻による沈線がみられる。2は外面にヘラ状施文具による沈線を施すものである。3は外面に縦位、横位の沈線文を施文するものである。4は外面にヘラ状施文具によるやや大きめの沈線を綾杉状に施文している。

遺物番号	層	胎土	焼成	色調		内面調整	文様その他
				外面	内面		
1	4a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	褐色	ナデ	貝殻による沈線文
2	4a	石英・長石・細砂礫	良好	茶暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ条施文具による沈線文
3	4a	石英・長石・細砂礫	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ条施文具による沈線文
4	4a	石英・長石・細砂礫	良好	茶褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ条施文具による沈線文
5	4a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	――――――



第5図　出土遺物実測図

3　まとめ

今回の発掘調査では、平成元年に確認された遺跡の範囲よりもやや広い範囲まで調査した。遺跡は西側の広域農業道路側にかけて上部が一部耕作のため削平されており、平成元年調査時の12トレンチで遺物が多数出土したため、すぐ近くの今回の調査予定範囲が遺跡の中心部に隣接するものと思われた。しかし、調査の結果縄文時代の土器が6点、石器が3点出土しただけで遺構等は確認されなかった。遺跡の範囲は今回の調査地点よりもさらに北側に約300mほど広がるため、遺物が集中する場所は数ヶ所存在するのもと思われる。

出土土器はヘラ条施文具による横位、縦位、斜位の平行沈線文を施文したもので、これは縄文時代前期の曽畑式土器に比定される。前回の確認調査でも12トレンチから多数出土しているが、牧ノ段遺跡以外では、本町における曽畑式土器の出土例は少ないが、志布志町別府石踊遺跡出土のもの（Ⅲ類）に類似している。

1　牧ノ段遺跡発掘調査風景

2　牧ノ段遺跡遺物出土状況

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）
県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区
牧ノ段農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

牧　ノ　段　遺　跡

発行日　１９９６年３月
発　行　松山町教育委員会
鹿児島県曽於郡松山町新橋268番地
印　刷　志布志新生社印刷
鹿児島県曽於郡志布志町
志布志東町3223－7